

同志社大学経済学部 2016 年度秋学期特別講義「企業分析」

2016 年 1 2 月 9 日 「ものづくりが生み出す企業競争力

～日本ものづくりの競争力と関西中堅企業の取り組み～」

講師名 石井博規

学生のベスト・コメント

■日本のもの作りの変遷をバラダイムシフトやイノベーションの重要性を中心にご説明された中で改めてその時代その時代に合わせた経営戦略を打ち出すことの重要性和難しさを認識できました!

学生のベスト・コメント

■今日だけでなくこの授業を通して日本企業は消費者の多様な評価軸を考えず、高い技術さえあれば売れるということを理解せず失敗したこと、イノベーションとは技術だけでなくターゲット層開拓など様々な方法がありそれを組み合わせることが大事だと気づかされます。

自分の就活の中で少量かとはもかく多品種 or 多業種の方向性で進める企業が多かったのでそこにも深く共感できました。

講師からのコメント

ものづくりの変遷を考察する中で、イノベーションの定義の重要性を認識し、講義後のディスカッションの中で八木先生のわかりやすい解説を伺い、私自身も理解を深めることができました。

八木先生も言及された山口栄一先生の「イノベーションはなぜ途絶えたか」(ちくま新書)はイノベーションについて考える契機となる好著だと思います。

「イノベーション」の観点から考えれば技術革新を経済価値に反映させる改革行為に展開できなかったことが、パラダイム変革に乗り切れなかった日本企業の問題ですが、更にリスクをとらないマネジメント、つまりは戦略なき経営がこれまでの日本電機産業経営の限界だったといえるかもしれません。

「イノベーション型企業」は?という問いにはまだ解は見いだせません。

しかしマーケティングというレベルを超えた経営戦略的視点が今後のイノベーションを切り開いていく為に必要であることは確かです。

皆さんも今後どのような業界に進まれても顧客視点、市場を常に見据えた経営感覚をもって、イノベーションを探求して行って頂きたいと願っています。

学生のベスト・コメント

ものづくりに於いて新たなイノベーションや技術者を生み出し他産業にも高い波及効果を持つ製造業は日本経済にとって 2 割という数字以上のものを持っているということに驚いた

学生のベスト・コメント

ご講義有難うございました。GDP 比が、1900 年代、2000 年代の紹介していただきましたが、2010 年代はどうなったのでしょうか。団塊世代がリタイアして行きました。多少の影響がありますか。

講師からのコメント

まず資料データの誤謬お詫びして下記のとおり訂正させていただきます。

「日本の産業構造を支える製造業(ものづくり)」

日本 GDP 比	製造業	サービス業
2003年	19.5%	17.6%
2013年	18.5%	19.9%

以上は2015年版ものづくり白書からのデータですが、同白書には製造業の産業別構成比や国内生産額の産業別構成比などのデータも出ていますのでご参照下さい。2011年のデータですが、国内生産額に於ける製造業の構成比は30.8%であり、他産業への波及効果が依然大きいことが理解できます。

また、世界銀行でのデータによれば1995年の日本製造業の GDP 比は22%となっており、2010年代と比較するとやはり高くなっております。これは生産の海外移転などの原因の他 IT などソフトウェア産業の勃興など産業構造の変化が要因となっており、製造業に多く携わっていた団塊世代のリタイアが、GDP からみた製造業のプレゼンス低下に影響していることも推測されます。

しかし見方を変えれば10年間での GDP 下落率は1%と、日本のものづくりの現場も想像以上に踏ん張っていると捉えることもできるでしょう。関西の中堅企業の取り組みもその踏ん張りの下支えをしていることを理解頂ければ幸いです。

なお、ものづくり白書や世界銀行のデータ(URL 下記)などのデータは直接参照可能ですのでアクセス頂ければと思います。

<http://data.worldbank.org/indicator/NV.IND.MANF.ZS>

以上